

授業計画（シラバス）

■科 目	薬理学	■講師名	藤井 彰
I 部 1 学年	後期	1 5 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 30 時間
		講義 2 単位	
■学修概要			
近代医学のめざましい発展に伴い、その一端を担う薬物療法も飛躍的な進歩を遂げた。薬理学では薬物療法における予防薬と治療薬を理解するために、薬物の性質、生体に対する作用機序、主作用・副作用について学ぶ。また次に学ぶ歯科臨床科目を理解するためにも大いに立つ学問である。			
■授業目的、到達目標			
生体の生理的状态（正常状態）と非生理的状态（病的状態）をよく理解し、それに使われる薬物療法を理解する。そのためには生化学、生理学をしっかりと理解しておく必要がある。薬理学の講義では、薬理学の基礎、医療用薬物、および歯科用薬物について説明できるようになる。			
■授業方法			
講義を主体とする。予習・復習は必須である。			
■教科書（書籍名・出版社）			
歯科衛生学シリーズ／薬理学 医歯薬出版			
■成績評価・講義上の注意			
平常試験、定期試験、レポート、授業への積極的参加・態度（予習・復習に基づく質問等）			
■実務経験			
大学で化学を専攻したあと、米国大学院で化学・生物化学を専攻し、その後大学院で薬学・薬理学・生理学を学び、講義も担当していた。日本大学松戸歯学部で薬理学主任教授として関連領域の生化学、生理学、細菌学を包括した薬理学講義を担当する傍ら、歯科英語、基礎化学の講義も責任者として担当した。			
■授業計画（講義の流れ）			
1	薬理学総論（1）薬物療法、薬物の作用の基本形式、薬物の作用機序		
2	薬理学総論（2）薬物動態、薬物の投与方法、薬物の作用に影響を与える要因		
3	薬理学総論（3）：薬物の副作用・有害作用、医薬品を適用する際の注意、薬物の取り扱い、薬物と法律・薬物と医薬品		
4	中枢神経系に作用する薬物：全身麻酔薬、睡眠薬、抗不安薬、鎮痛薬、パーキンソン病薬		
5	末梢神経系に作用する薬物：局所麻酔薬、自律神経系に作用する薬物、筋弛緩薬		
6	循環器系に作用する薬物、呼吸器系に作用する薬物、血液に作用する薬物、消化器系に作用する薬物		
7	炎症と薬、代謝性疾患治療薬、ビタミンとホルモン		
8	平常試験 、解答解説		
9	消毒薬：消毒薬の分類・作用機序・臨床応用		
10	感染症治療薬（抗菌薬・抗ウイルス薬）の分類・作用機序・臨床応用		
11	悪性腫瘍治療薬の分類・作用機序、免疫と薬		
12	歯内療法に使用する薬物		
13	歯周疾患・歯性感染症に使用する薬物・口腔用薬		
14	う蝕予防薬		
15	定期試験 、解答解説		